

# 有機水稲栽培に向けた実践チェックシート

項目	チェック項目	時期	☑
ほ場の選定	良好な生育に必要な日照が確保できるほ場である	3月末まで	
	必要な時期に用水を確保でき、入水・排水が実施できるほ場である		
	移植機、収穫機等が進入できるほ場である		
入水・排水対策	排水路が確保されており、降雨等の後にも速やかに排水ができる		
	効果的な暗渠が設置されている		
土壌改良・施肥	土壌診断等に基づく施肥を行っている		
耕起・代かき	稲わら残渣の分解は十分である	入水前	
	耕起前に、ほ場の状態を確認してから耕起している		
	耕起は、ほ場条件に合わせた適切な深さで行っている	移植前	
	雑草の発生を抑制する代かきを行っている		
育苗	種子更新・種子消毒を行っている	播種前	
	播種は適切な播種量で行っている		
肥料	有機質肥料である（本マニュアルでは「有機アグレット666,727」） ※有機質肥料に該当するかは事前に有機認証機関に問合せください	育苗中・移植時	
移植	移植時のほ場条件は適切である（水位、雑草、均平、土の締まり具合）	移植前	
	適切な苗の植え付けを行っている（本数・密度など）	移植時	
追肥	生育状況に応じた適切な追肥（時期・施肥量）を行っている	追肥時期	
抑草	アイガモロボ	水深5～10cmが確保できるほ場であり、ほ場の土質は砂質ではない	3月末まで
		抑草後の残草処理方法を決めている	移植前
	水深5～10cmで田面が露出しないように均平である	機械投入前	
	アイガモロボ(IGAM2)は苗が活着(田植え4～5日後)してから投入		
	アイガモロボの稼働時間は適切に設定している	幼穂形成期	
残草(種類・発生量)の確認を行っている			
機械除草を行う場合	1回目	除草1回目までは水深5cmの水管理を行っている	移植後 5～7日
		移植後5～7日に除草を行っている	
		1回目の除草後、残草に応じた除草対策を講じている	除草時
	2回目以降	2回目を行う場合は、1回目の除草後、10日以内に除草を行う	2回目の除草時
		移植後、40～45日までは水深10cmの水管理を行っている	除草後～中干しまで
残草(種類・発生量)の確認を行っている	幼穂形成期		
雑草対策	ヒエ	冬期湛水または早期湛水を行っている	冬～春
		深水管理により発生量の抑制・徒長軟弱化をしている	移植後
	コナギ・ホタルイ	1葉期程度のところで除草している	移植後
		定期的な発生量の確認、除草を行っている	除草後
クログワイ	秋に耕起し、塊茎を露出させている	前年秋	